

# 『骨密度測定装置(DEXA)』

を導入しました。

## 骨粗しょう症の診断・治療の取り組み

当院はこれまで、かかとの骨を測定する「超音波骨密度測定装置 QUS 法」にて骨粗しょう症の診断を行ってきましたが、**H27年7月に最新型の骨密度測定装置「X線骨密度診断装置 DEXA 法(大腿骨頸部・腰椎で測定)」を導入**しました。市民の健康福祉向上を目指して進めて参りますのでどうぞご活用ください。



### 「骨粗しょう症」とはどんな病気？

全身の骨がもろくなり、骨折の危険性が高い状態を言います。患者本人に「**自覚症状が無く**」病気が進行するのが特徴です。初期は痛みがほとんどありません。ですから、進行するとちょっとした転倒で骨折して、介護が必要(寝たきり)になるケースを多く目にします。

### 「骨粗しょう症」心配なのですが、どうすれば？

まずは、**診療科の先生**に相談しましょう。

健診を受ける予定の方は追加で「**骨密度検査**」を選択できる場合がありますので、受診の際にお尋ねください。



#### 基本性能(超音波法との比較)

・DEXA 法(標準測定部位 大腿骨頸部・腰椎)

**長所**...全身の測定ができる。精度が高い。有資格者が測定している。治療効果判定に用いられている。

**短所**...少量のX線被ばくがある。測定時間が10分程度必要。精度の品質管理が必要。高コスト。検査料がやや高価。

・QUS 法(超音波)【測定部位 踵(かかと)】

**長所**...被ばくがない。妊娠可能な女性の検査ができる。低コスト。踵骨と体幹中心骨とは一定の相関有り。有資格者がいない。検査時間が短い。スクリーニングに多く用いられている。検査料が安価。

**短所**...踵骨しか測定できない。治療効果判定に利用している医師は少ない。